

第7回 立命館大学実践教育学会 研究大会 実施報告

OECD Education 2030 から考える学校教育の未来―「エージェンシー」を育てるために私たちができること―



修了生の藤川瞭さん

第1部「実践報告会」

藤川 瞭 神山まるごと高等専門学校スタッフ

芝山 将至 岐阜県海津市立平田中学校 国語科教諭

第2部「講演会」

白井 俊 内閣府科学技術・イノベーション会議事務局参事官

第3部「シンポジウム」

シンポジスト 堀江未来氏(立命館大学グローバル教養学部教授・立命館小学校校長)、井上志音氏(灘中学校・高等学校 国語科教諭)



修了生の芝山将至さん



講師の白井俊参事官



シンポジウムの様子

2023年10月15日(日)に立命館大学大学院実践教育学会第7回が開催されました。今大会は4年ぶりの対面実施となり多くの方に会場にお越しいただきました。また、Zoomでの配信により遠方の皆さんにも多数参加いただき、感謝申し上げます。この実践教育学会は教員と院生が協力して行うものですが、今大会は特に学生が中心となって企画・運営をし、ZOOM配信も院生が担当しました。

第1部は「実践報告会」として、本研究科修了生の2人が教職大学院での学びを教育現場に生かした実践を報告されました。藤川瞭先生(徳島県神山まるごと高等専門学校スタッフ)は「神山まるごと高専という挑戦」の報告をされました。高等専門学校の設立準財団の事務局メンバーとして、その活動は大きな話題をよび、新聞、マスメディアにも取り上げられたものでした。

また、芝山将至先生は、特産物「南濃みかん」を使ったジュース開発を通じた「総合的な学習の時間におけるふるさと教育の実践」を報告されました。この実践は高く評価され、岐阜県ふるさと教育の最優秀賞を受賞しました。2人の報告に共通しているのは「地域」「人材育成」「挑戦」というkey wordsでした。報告の中で「将来ふるさとを出ても、私は故郷を誇り思うだろう」という中学生の言葉が印象深いものでした。学校教育の未来を物語る報告でした。

第2部の「講演会」では、白井俊氏(内閣府科学技術・イノベーション会議事務局参事官)による「OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来～エージェンシーを育てるために私たちができること～」というテーマでご講演をいただきました。今後の教育の中心的テーマに予想される「エージェンシー」を中心とした内容で、①「21世紀型スキル」では各国のカリキュラム改革の動向、②「Educatio2030の背景と考え方」、③OECD Learning Compass2030の図を使いながら「ウェルビーイングとエージェンシー」などについて、④「カリキュラム・オーバーロード」、⑤「これからの教育を考える」では、シンガポールの先進的な事例を取り上げ、「学校改革はトップダウンで指示しても改革はできない、教師たちの自主性を信じ学校のエージェンシーを育もうとしている。」として示唆に富むものでした。

第3部は「シンポジウム」として、「OECD Education 2030 から考える学校教育の未来―エージェンシーを育てるために私たちができること―」というテーマのもと、コメンテーター白井俊氏、シンポジスト 堀江未来氏(立命館大学グローバル教養学部教授・立命館小学校校長)、井上志音氏(灘中学校・高等学校 国語科教諭)をお迎えし、荒木寿友教授(立命館大学大学院教職研究科)がコーディネーターとして議論が交わされました。議論は第2部の講演の中心的内容であるエージェンシーを議論の柱とし、「Equality(平等)からEquity(公平)」、学校の新しい組織文化をつくるために「トップダウン」から「ボトムアップ・ミドルアップ」、「参加型リーダーシップ」など議論が続きました。

第1～3部を通して会場参加者から多くの意見や質問があり、実り多い実践教育学会になりました。

皆様のご意見を受け、来年度も興味深いテーマを企画し、多くの皆様の参加を期待しております。